

【一】

問一 書き問題は、㉔のように難しいものではないが、たずねられるとすぐに思いつかないようなものや、読み問題は㉔のような、難解なものも出題した。読み書きは大学入試や就職試験でも問われ続けるので、しっかり勉強し続けよう。

問二 表現技法を問うた。国語便覧などを用いて、高校入学後もしっかりと確認し、定着させていこう。

問三 直前の段落にその指し示す内容が書かれている。

アは「弦楽器だけを演奏することは、詐欺だとされている」という記述がないため誤り

イは職工になってほしいと親から言われているわけではないので誤り

エは「詐欺師のように感じた結果、感謝する対象が分からなくて、神に感謝する」ので誤り

問四 直前の「親の気持ち」に注目し、判断する。「昔は俺の結婚について、あれこれ口にしたこともある。今はあきらめて、何も言わない。」という文章から、両親は俺に結婚してほしいと思っていたことがうかがえるが、俺は結婚をする気がないという部分に注目する。

問五 直前の段落に書かれている「存在感」に注目し、判断する。「俺は暗い」に対する選択肢を選ぶ必要がある。

問六 直後の文から判断する。「俺も生まれ変わったら、歌手になりたい。」という部分から、歌を専攻している人をうらやましく思う気持ちを読み取る。

問七 直後の文章から、「どのような時間なのか」を判断する。

アは「恐ろしく退屈な「レコード鑑賞」という時間」が誤り

イは「いねむりする時間」が誤り

ウは「クラシック音楽の記憶があふれ出る時間」が誤り

問八 (1) は直後の段落から考える。

(2) は「マグマを腹の底に持っている。」鹿間氏との違いに注目して判断する。

問九 言葉の意味を問うた。

問十 接続詞の選択問題である。

【二】

問一 ローマ字表記で **au** となる表記を現代語で読むときには「オー」となる。「さやうに」は **sayouni** となるので…。文頭以外の「はひふへほ」は、「わいうえお」になる。

問二 A「あな〜や」は「なんと〜ではないか」、「いみじ」は望ましい場合は「すばらしい・りっぱだ等」、望ましくない場合は「たいへんだ・ひどい等」となる。今回は前者。B「し給ひける」の「し」は「する」、「給ひ」は尊敬の補助動詞。したがって「していらいっしゃる」となる。C「いやし」は「身分が低い・粗末だ」という意味がある。食糧を修飾しているので「粗末な」がふさわしい。

問三 (1) 係り結びの問題。係助詞は「ぞ・なむ・や・か・こそ」。

(2) 前文に「どうしても歌い続けていないのですか」とあり、直後では「今さら食べ物を求めてどうするの」とからかっているところから連想する。イウエは、励ましたり助言する表現になっている

問四 蝉は、夏から秋にかけて木にとまって歌う(鳴く)ことに忙しくて何もする暇がなかったと言っている。そして今食べ物がなくて困っている。

問五 「ゆたかなる時〜」、「さかんなる時〜」が伝えようとしていることは…。

問六 (1)『伊曾保物語』は「イソホ物語」と読む。この音から連想されるものはどれか。

(2) 正岡子規は明治時代の俳人・歌人。

【現代語訳】

そうこうしているうちに、春が過ぎ夏も過ぎ、秋も深まり冬の気候になったとき、うらうらとした陽気の日、蟻が穴から出てきて、濡れた食糧を乾かしていた。蟻が来て蟻に申した。「なんと立派な蟻さんなんだ。こんな寂しい冬になっても、そんなにたくさん食べ物を持っていらっしゃるんですね。私にも少し食べ物を恵んでくださいな」と申したので、蟻が答えて言うには、「あなたは、春から秋の仕事は何をなさっていたのですか」と言うので、蟻が答えて言うには、「夏から秋の私たちの仕事は、木にとまって歌うだけです。そうやって歌を歌うのに忙しくて、暇のないまま過ごしていました」と言うくと、「どうしても歌いにならないのですか。謡いに深入りするといには踊り出すとも申します。粗末な食糧を求めて、(今さら)何をなさるおつもりですか」といって巣穴にはいなかった。

その通りである、人間の世の中にあることも、自分に力があり余っているときには、しっかりと仕事をしておかなくてはならない。豊かな時、節約しない人は、貧しくなった後、悔やむものである。学び盛りの時に学んでいなければ、老いた後に後悔するものである。酔いに任せて乱れてしまうと、醒めた後に悔いるものだ。返す返すもこのことを肝に銘じなさい。

【三】

問一 四字熟語の問題。同じ字が繰り返し用いられる四字熟語は多数あるのでマスター願いたい。四字熟語からくる意味は普段の生活と密着したものであるのでこちらも普段から意識してほしい。

問二 文学史冒頭文からの出題。

冒頭文↓作品↓作者と、顕著な作品については一連の流れで記憶しておきたい。